

| | | | |
|-------------|-------------------------------------|---------|--|
| ふりがな 氏 名 | きむら だいすけ 木村 大介 | 職 名 | 教授 |
| 取 得 学 位 | 博士(保健学) | 学会での受賞歴 | 第54回日本作業療法学会優秀演題(令和2年9月)、第55回日本作業療法学会最優秀演題(令和3年9月) |
| 主な担当科目 | 基礎運動学、基礎運動学演習、身体障害作業療法治療学、身体障害治療学演習 | | |
| 所 属 学 会 | 日本作業療法士協会、愛知県作業療法士協会、認知症ケア学会 | | |

◆ 教育業績

| 事 項 | 実 施 年月(日) | 概 要 |
|-----------------------|-----------------------|---|
| 1 教育方法の実践例 | | |
| ① 面接の実施(個人に対応した教育の実践) | 平成30年度 から現在に 至る | 学年担当となった学生に最低年2回の定期面接を実施し、学生の学習への取り組み、学生生活上の問題点、学内の様子を把握するように努めた。この定期面接の他、問題が発生した場合には、迅速に面接を行い、その問題解決のための対策を立て、普段の大学生活のなかでも注意を喚起するように学生と接し、計画を実践させるようための指導を実施している。これにより学生は、講義に取り組む姿勢が変化したり、問題に深く陥ってしまう前に自己修正したりするなどの成果を認めている。加えて、必要であれば迅速に保護者にも来学いただくよう対応し、問題の早期解決に努めている。また、この面接等の結果はすべて詳細な学生記録として保管し、他の教員との情報共有を図っている。 |
| ② 小テストを指標にした教育の実践 | 平成30年度 から現在に 至る | 学習効果を確認するための小テストを担当科目で実施している。普段の学生の勉強に対する取り組み方が小テストに反映されるため、意欲の低下、勉強方法の変化、勉強時間の増減などを早期に把握することが可能である。また、結果として、学生全体の知識向上をはかることに繋がっている。 |
| ③ マルチメディア技術の利用 | 平成30年度 から現在に 至る | 実習系の講義や研究法などの科目で、プレゼンテーションソフトによる学生発表、統計ソフトの操作演習、インターネットによる文献検索、ワープロソフト Word による抄録作成などにコンピュータを活用している。 |
| ④ e-mailの利用 | 平成30年度 から現在に 至る | 臨床実習で課題の遂行がスムーズでなかったり、人間関係が構築できなかったりするなどの問題が生じ、実習の課題遂行に苦慮している学生に対し e-mail により相談をうけている。これにより、知識の補充、資料の提供、指導者と学生の仲介など早い段階で問題に手をつけることが可能になった。また、メーリングリストを作成し、学生への講 |

| 事 項 | 実 施 年月(日) | 概 要 |
|---|--|---|
| <p>⑥臨床実習施設との連携</p> <p>2 作成した教科書, 教材</p> <p>①講義用教材</p> <p>②行政資料の配布</p> | <p>平成30年度 から現在に 至る</p> <p>平成30年度 から現在に 至る</p> <p>平成30年度 から現在に 至る</p> | <p>義の準備品の指示やクラスの情報共有などの伝達方法を構築している。</p> <p>臨床実習における教育を充実するためには、実習指導者に養成校の教育目標や理念をしっかりと伝え、実践していただくことが重要であると考えている。そのためには、指導者との密な連携は大切である。そこで、実習施設に対し、臨床実習中の連絡は当然のこと、臨床研究の相談、勉強会のサポート、再就職の相談などの関わりを多くもち、臨床実習地との信頼関係の構築を図るよう心がけている。結果として、実習地の確保や臨床実習における学生教育に大きく貢献する成果をあげている。</p> <p>担当するすべての科目において、オリジナル講義用のレジュメを作成し、それをもとに授業を展開している。このレジュメのボリュームは、科目によって多少異なるが、平均してA4版で4~5枚程度(1コマあたり)である。自身が作成したレジュメを配布することで、教員が伝えたい内容が学生に明確に伝わる、資料に沿った講義の展開ができるなどの効果を認めている。</p> <p>老年期作業療法学では、医療保険、介護保険等の紹介と解説を行う必要がある。法改正に合わせ最新の医療点数、介護保険点数を踏まえた作業療法介入の視点を与えている。また、高齢者数、認知症高齢者数とう年度更新される情報も随時最新情報を紹介している。そのため、行政発表の資料を、PPTなどにまとめ講義資料として使用している。概ね毎講義PPT2~3枚程度配布している。</p> |

◆ 研究業績

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称 | 単・共 | 発行・発表年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名) | 備考 |
|----|---|-----|------------|---|--|
| 論文 | 認知症高齢者の行動・精神症状(BPSD)と自律神経活動の関連性 | 共 | 平成30年8月 | 作業療法 37巻4号 | 木村大介, 能登谷晶子, 今井あい子, 大歳太郎 p.337-384 |
| | 回復期リハビリテーション病棟入院患者における生活行為聞き取りシートの実現性に関する検討 | 共 | 平成30年4月 | 岐阜作業療法 20巻 | 石川真太郎, 木村大介, 今井あい子, 山田和政 p.14-16 |
| | アルツハイマー描写の連続記憶様動作が握力測定に及ぼす影響について | 共 | 平成30年4月 | 認知リハビリテーション 23巻1号 | 橋本宏美, 藤田高史, 木村大介, 富山直輝, 加藤清人, 磯野倫夫 p.18-24 |
| | 脳卒中発症後に OT 開始時期による FIM 項目が早期離床に与える影響— 共分散構造分析を用いた探索的研究— | 共 | 平成30年6月 | 日本臨床作業療法研究 5巻 | 中山淳, 木村大介 p.87-93 |
| | A Study on Visual Search during the Trail Making Test: Analysis Using an Eye Tracker | 共 | 平成30年9月 | Neuroscience and Medicine Vol.9 No.3 | Daisuke Kimura, Taro Ohtoshi, Hiroki Bizen, Aiko Imai, Masako Notoya, Kazumasa Yamada p.116-122 |
| | Differences of Neglect in Peripersonal Space and Extrapersonal Space in a Patient with Unilateral Spatial Neglect | 共 | 平成30年10月 | Case Reports in Clinical Medicine Vol.7 No.10 | Daisuke Kimura, Ken Nakatani, Masako Notoya, Aiko Imai, Hiroki Bizen, Minoru Toyama, Kazumasa Yamada p.513-525 |
| | 希望者と非参加希望者が混在した院内デイケアにおける非参加希望者の介入効果の検討 | 共 | 令和元年9月 | 健康レクリエーション研究 第15巻 | 中村浩哉, 木村大介, 山田和政 p.11-17 |
| | 作業遂行に影響する要因の予備的研究 | 共 | 令和元年9月 | 健康レクリエーション研究 第15巻 | 石川真太郎, 木村大介, 山田和真 p.61-64 |
| 論文 | Influence of seasonal variations on physical activity in older people living in mountainous agricultural areas | 共 | 令和元年9月 | Journal of Rural Medicine Volume 14 Issue 2 | Daiki Nakashima, Daisuke Kimura, Hidehiro Watanabe, Fumihiko Goto, Miki Kato, Keisuke Fujii, Eri Kasuya, Naoki Tomiyama, Ryuichi Hasegawa p.165-175 |
| | Association between non-locomotive light-intensity physical activity and depressive symptoms in Japanese older women: A cross-sectional study | 共 | 令和2年1月 | Mental Health and Physical Activity Volume 18 | Aiko Imai, Toshiyuki Kurihara, Daisuke Kimura, Noriko Tanaka, Kiyoshi Sanada https://doi.org/10.1016/j.mhpa.2019.100303 |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年 月 (日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|-----|---|-------------|------------------------|---|--|
| 論 文 | 認知症の BPSD に対するデータマイニングに基づく行動パターン解析に関する研究 | 単 | 令和 2 年 3 月 | Medical Science Digest 45 巻 13 号 | 木村大介 p.22 |
| | 「目的」や「意味」を持つ“作業”に焦点をあてた介入による自律神経活動の変化 | 共 | 令和 3 年 4 月 | 岐阜作業療法 21 巻 | 田原涼馬, <u>木村大介</u> , 石川真太郎, 今井あい子 p. 12-17 |
| | 長期入院患者の自動車運転時の視覚的注意に関する検討～眼球運動と脳血流量の同時計測による検討～ | 共 | 令和 3 年 4 月 | 岐阜作業療法 21 巻 | 久納健太, <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 山田和政 p.6-11 |
| | 課題指向型アプローチである CI 療法の Shaping 実施時の前頭眼窩野の賦活に関する予備的研究ー NIRS 計測時に統制が必要な要因の検討ー | 共 | 令和 3 年 4 月 | 岐阜作業療法 21 巻 | 立岩慧士, <u>木村大介</u> , 久納健太, 海光琢磨, 備前宏紀 p.18-23 |
| | 臨床実習課題と今後の臨床実習指導の在り方の検討 ー症例報告レポートからプレゼンテーション課題に変更してー | 共 | 令和 2 年 2 月 | リハビリテーション教育研究第 26 号 | 坂井和也, <u>木村大介</u> p.90-95 |
| | 改訂長谷川式知能評価スケール (HDS-R) の結果に影響する神経心理学的要因の検討 | 共 | 令和 2 年 2 月 | 日本臨床作業療法研究 第 7 巻 | 久納健太, 豊田みのり, 備前宏紀, 藤井啓介, <u>木村大介</u> p.26-30 |
| | グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた認知症 BPSD に対する行動パターンの分析 | 共 | 令和 2 年 2 月 | BIO Clinica35 巻 4 号 | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 今井あい子 p.57-59 |
| | 地域在住女性高齢者における身体活動の種類・強度と 2 年後の抑うつ症状との関連 | 共 | 令和 2 年 8 月 | 理学療法科学 35(4) | 今井あい子, 真田樹義, <u>木村大介</u> , 栗原俊之 p.1-7 |
| | 在宅復帰後の作業参加とストレスに関する検討ー自記式作業遂行指標 (SOPI) と心拍変動解析を用いてー | 共 | 令和 2 年 2 月 | 作業療法 40 巻 1 号 | 石川真太郎, 今井あい子, <u>木村大介</u> p.262-266 |
| | 介護予防事業における集団ゴムバンド運動が軽度認知障害を有する | 共 | 令和 2 年 10 月 | 認知症ケア学会誌 19 巻 3 号 | 渡邊英弘, 富山直輝, 後藤文彦, 中島大貴, <u>木村大介</u> , 井戸 |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年 月 (日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|---------------------------------|--|-------------|--------------------------|---|---|
| 論 文 | 女性高齢者の認知機能に及ぼす効果 | | | | 尚則, 岡山直樹, 長谷川龍一 p.557-564 |
| | 認知症高齢者のBPSDにおける行動パターン の解析—グラフ理論に基づくネットワーク解析からの検討— | 共 | 令和2年10月 | 地域ケアリング 22 巻 10号 | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 今井あい子 p.34-37 |
| | Eye Movements and Frontal Cerebral Blood Flow during Dual-Task Performance in Young Adults: Basic Data to Identify the Mechanisms Underlying Falling in Older Adults | 共 | 令和2年11月 | International journal of Neurorehabilitation | Kazumasa Yamada, Kiminobu Furukawa, Shinya Yokoyama, <u>Daisuke Kimura</u> and Kazuko Watanabe |
| | 運動学習過程における脳血流動態およびグラフ理論を用いた脳内ネットワークの変化から運動課題介入期間の検討 | 共 | 令和2年10月 | 作業療法 40 巻 3 号 | 備前宏紀, <u>木村大介</u> , 大歳太郎, 吉弘奈央, 水野由子 p.281-290 |
| | Precision pinch force control via brain and spinal motor neuron excitability during motor imagery | 共 | 令和3年5月 | Neuroscience Letters 24 March 2021 Volume 754 | Yuki Fukumoto, Marina Todo, Hiroki Bizenn, <u>Daisuke Kimura</u> , Toshiaki Suzuki Article 135843 |
| | 介護予防を目的とした高齢者主体で運営される自主グループによるソーシャルサポート・ネットワークの変化 | 共 | 令和3年6月 | 理学療法科学 36 巻 4 号 | 後藤文彦, 渡邊英弘, 中島大貴, 井戸尚則, 岡山直樹, 富山直輝, <u>木村大介</u> , 長谷川龍一 p. 1-9, 2021 |
| | グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた認知症高齢者の行動パターンの解析 | 共 | 令和3年4月 | 老年精神医学雑誌 32 巻 7 号 | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 藤井啓介, 今井あい子, 富山直輝 p.779-784 |
| | Shared decision making modelによる意思決定に関与する脳領域の神経生理学的観点からの実証—グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた分析— | 共 | 令和3年4月 | 岐阜作業療法 21 巻 | 海光拓磨, <u>木村大介</u> , 久納健太, 立岩慧士, 備前宏紀 p.2-5 |
| | Causal relationships between brain and spinal motor neuron excitability during motor imagery: Using NIRS and evoked electromyogram study | 共 | 令和4年4月 | Neuroimage Reports 2 | Yuki Fukumoto, Marina Todo, Hiroki Bizen, <u>Daisuke Kimura</u> , Toshiaki Suzuki |
| Falling Mechanism During a Dual | 共 | 令和4年6 | International journal of | Yamada Kazumasa, Kiminobu | |

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発行・ 発表 年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|------|---|-------------|--------------------|--|--|
| | Task Based on Eye Movement and Frontal Blood Flow in Elderly | | 月 | Gerontology | Furukawa, Hayashi Iemasa, Kaiko Takuma, Miyahara Yuta, <u>Daisuke Kimura</u> |
| | Causal Relationship Between Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia and Autonomic Nervous Activity: A Covariance Structure Analysis | 共 | 令和4年7月 | International journal of Neurorehabilitation Volume 8:7 | <u>Daisuke Kimura</u> , Hiroki Bizen, Aiko Imai |
| | 認知症高齢者の行動パターンの解析とその予測—グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた解析と決定木分析による予測— | 共 | 令和4年4月 | 地域ケアリング24巻4号 | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 今井あい子 p.70-74 |
| | グラフ理論に基づくネットワーク解析を用いた認知症高齢者の行動パターンの解析 | 共 | 令和4年5月 | 地域ケアリング24巻5号 | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 今井あい子 p.91-95 |
| | 地域在住高齢者における意味のある作業の参加に関する要因 | 共 | 令和4年6月 | 地域ケアリング24巻8号 | 今井あい子, <u>木村大介</u> , 坂田裕香 p.78-81 |
| | 地域在住高齢女性における身体活動推奨値に関連する要因 | 共 | 令和5年3月 | 鈴鹿医療大学紀要第29号 | 今井あい子, <u>木村大介</u> , 坂田裕香 |
| 学会発表 | 眼球運動から見た Trail Making Test partA の視覚探索としての適性に関する検討 | 共 | 平成30年11月 | 第17回東海北陸作業療法学会(名古屋) | 立岩慧士, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 「目的」意味を持つ作業に焦点をあてた作業療法介入による治療的効果の検討 | 共 | 平成30年11月 | 第17回東海北陸作業療法学会(名古屋) | 田原涼馬, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 認知症高齢者の活動的反応と維持的反応が認知機能に与える影響についての検討 | 共 | 平成30年9月 | 第52回日本作業療法学会(名古屋) | <u>木村大介</u> , 富山直輝, 今井あい子, 備前宏紀 |
| 学会発表 | 作業遂行に影響する要因の検討 | 共 | 平成30年9月 | 第52回日本作業療法学会(名古屋) | 石川真太郎, <u>木村大介</u> |
| | 共分散構造分析を用いた急性期脳卒中患者に対する早期離床がFIM項目に与える影響 | 共 | 平成30年9月 | 第52回日本作業療法学会(名古屋) | 中山淳, <u>木村大介</u> |
| | 院内デイケアの役割～閉じこもり傾向の事例を通して～ | 共 | 平成30年11月 | 第6回慢性期リハビリテーション学会(米子) | 立岩慧士, 中村浩哉, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 院内デイ参加の効果を予測する因子の検討～自律神経活動の観点 | 共 | 平成30年11月 | 第18回東海北陸作業療法学会(福井) | 船戸類, <u>木村大介</u> , 富山直輝, 横山信也, 立岩慧士, 山田和政 |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|--|--|-------------|------------------------|--|--|
| 学会発表 | から～ | | | | |
| | 参加希望者と非希望者が混在した 院内デイにおける参加非希望者の 介入効果の検討 | 共 | 平成 30 年 11 月 | 第 18 回東海北陸作業療 法学会(福井) | 中村浩哉, <u>木村大介</u> , 富山直 輝, 横山信也, 立岩慧士, 山田 和政 |
| | 調理動作における「切る」動作は脳 機能を活性化するか? | 共 | 平成 30 年 10 月 | 第 34 回岐阜県病院協会 医学会(大垣) | 久納健太, <u>木村大介</u> , 富山直 輝, 横山真也, 山田和政 |
| | 院内デイケア参加の効果を自律神 経活動から考える. リハビリテーシ ョン | 共 | 平成 30 年 10 月 | リハビリテーション・ケア 合同研究大会 2018(島 根) | 立岩慧士, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | トイレ移乗動作と模倣動作時の前 頭葉機能の比較. | 共 | 平成 30 年 5 月 | 第 22 回岐阜作業療法学 会(岐阜) | 海光拓磨, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 被殻出血により CRPS を呈した患者 の自律神経活動に着目した痛みの 評価 | 共 | 平成 30 年 5 月 | 第 22 回岐阜作業療法学 会(岐阜) | 山田洋樹, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 自動車運転画像を見たときの眼球 運動および脳血流量の違いー健 常者と入院患者の Near-infrared spectroscopy(NIRS)と eyecamera を 用いた分析ー | 共 | 平成 30 年 5 月 | 第 22 回岐阜作業療法学 会(岐阜) | 久納健太, <u>木村大介</u> , 千原壮 智, 山田和政 |
| | 課題指向型アプローチ実施時の 報酬系の賦活に関する検討 | 共 | 令和元年 5 月 | 第 6 回日本臨床作業療 法学会(浜松) | 立岩慧士, <u>木村大介</u> , 久納健 太, 海光琢磨, 山田和政 |
| | Shaping と Task practice 実施時の報 酬系の賦活の特徴 | 共 | 令和元年 5 月 | 第 6 回日本臨床作業療 法学会(浜松) | 久納健太, <u>木村大介</u> , 立岩慧 士, 海光琢磨, 山田和政 |
| | 在宅復帰後の作業遂行とストレス に関する検討ー自記式作業遂行 指標(SOPI)と心拍変動解析を用い てー | 共 | 令和元年 9 月 | 第 53 回日本作業療法学 会(福岡) | 石川真太郎, <u>木村大介</u> , 今井あ い子, 山田和政 |
| | 地域在住高齢女性の抑うつに関連 する身体活動の強度とタイプ | 共 | 令和元年 9 月 | 第 53 回日本作業療法学 会(福岡) | 今井あい子, 真田樹義, <u>木村大 介</u> , 栗原俊之 |
| | 物忘れの主訴がある高齢者におけ るアルツハイマー病とレビー小体 型認知症の特徴の違いについて | 共 | 令和元年 9 月 | 第 53 回日本作業療法学 会(福岡) | 澤田将吾, 備前宏紀, <u>木村大介</u> |
| 運動学習課題における脳の経時的 な機能変化について ー近赤外線分光を用いた検討ー | 共 | 令和元年 9 月 | 第 53 回日本作業療法学 会(福岡) | 備前宏紀, <u>木村大介</u> , 大歳太 郎, 吉弘奈央, 水野由子 | |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|------|---|-------------|----------------------|---|---|
| 学会発表 | センシングデータを用いた認知症 高齢者の行動パターン分析 | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 今井あい 子, 富山直輝 |
| | 幼児における感覚処理の特性と問 題行動との関連性 | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | 倉澤茂樹, 丹葉寛之, 立山清 美, <u>木村大介</u> , 岩永竜一郎 |
| | 地域在住女性高齢者における身 体活動の種類・強度と2年後の抑 うつ症状との関連 | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | 今井あい子, 真田樹義, <u>木村大 介</u> , 栗原俊之 |
| | 「意味のある作業」の実践に関与す る脳領域の検討 | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | 石川真太郎, <u>木村大介</u> , 山田和 政 |
| | 注意反応課題における機能的電 気刺激の効果について —近赤外線分光法を用いた検討— | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | 吉弘奈央, 大歳太郎, <u>木村大 介</u> , 備前宏紀, 網本 和 |
| | 近赤外線分光を用いた運動学習 における脳内ネットワークの変化の 検討 | 共 | 令和2年10 月 | 第54回日本作業療法学 会(新潟) | 備前宏紀, <u>木村大介</u> , 大歳太 郎, 吉弘奈央, 水野由子 |
| | 幼児における感覚処理の特性を起 因とする問題行動および睡眠問題 の仮説モデルの検討 | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | 倉澤茂樹, 丹葉寛之, 立山清 美, <u>木村大介</u> , 岩永竜一郎 |
| | NIRS を用いた脳卒中後アパシー の類型化の取り組み | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | 市橋星香, <u>木村大介</u> , 備前宏 紀, 山田和政 |
| | グラフ理論を用いたネットワーク解 析に基づく認知症高齢者の QOL の状態による行動パターンの特徴 | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | <u>木村大介</u> , 塩津裕康, 備前宏紀, 今井あい子, 富山直輝 |
| | アルツハイマー病者に対し記憶補 助ツールとして Skype を用いた服 薬管理の効果について —アルツハイマー病者の適応基準 の設定— | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | 藤田高史, 能登谷晶子, <u>木村大 介</u> , 加藤清人 |
| | 意味のある作業への参加が身体活 動量に与える影響—健康高齢者を 対象とした3年間の縦断研究— | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | 今井あい子, <u>木村大介</u> , 真田樹 義, 栗原俊之, 富山直輝 |
| | 生理学的指標である脳機能の観点 から「意味ある作業」の主意を問う — NIRS を用いた脳血流量と脳内 ネットワークの検討— | 共 | 令和3年9 月 | 第55回日本作業療法学 会(仙台) | 石川真太郎, <u>木村大介</u> , 備前宏 紀, 田原涼馬 |

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年 月 (日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|-----|---|-------------|------------------------|---|---------------------------------------|
| | 認知症高齢者の行動パターンの類型化と予測—クラスタ分析とネットワーク解析による行動パターンの類型化と決定木分析による予測— | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | <u>木村大介</u> , 備前宏紀, 富山直輝, 今井あい子 |
| | 運動学習進行過程における前頭前野の賦活の変化. | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 備前宏紀, <u>木村大介</u> , 水野(松本) 由子 |
| | 脳卒中後アパシーを呈した事例に対するアパシー類型化後の介入 | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 市橋星香, <u>木村大介</u> , 海光拓磨, 山田和政 |
| | NIRS (near infrared spectroscopy) を用いたアパシーの類型化の検証 | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 海光拓磨, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | やる気スコアの下位項目を用いたアパシータイプの予測 | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 立岩慧士, <u>木村大介</u> , 海光拓磨, 山田和政 |
| | Mental-Checker と質問紙による心理検査の関連と虚構性に関する検討 | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 石川真太郎, <u>木村大介</u> , 山田和政 |
| | 一側の筋への圧刺激は対側の脊髄前角細胞の興奮性に影響を与えない | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 久納健太, 竹中孝博, <u>木村大介</u> |
| | 幼児における問題行動と感覚処理特性および睡眠の構造的関連性の検討 | 共 | 令和4年9月 | 第56回日本作業療法学会(京都) | 倉澤茂樹, 丹葉寛之, 立山清美, <u>木村大介</u> , 岩永竜一郎 |